

宇陀市学校適正化推進委員会だより

新しい学校の基本となる案を協議

1 第7回宇陀市学校適正化推進委員会を開催しました！

令和5年3月24日（金）に榛原小学校において、第7回宇陀市学校適正化推進委員会を開催しました。

今回は、2月に無作為に選んだ市民と保護者、児童生徒、教員、のべ6,530人を対象に行ったアンケート調査の結果を踏まえ、第5回推進委員会で示された3つの案の中から協議の基本となる案を絞り込むために話し合いを行いました。



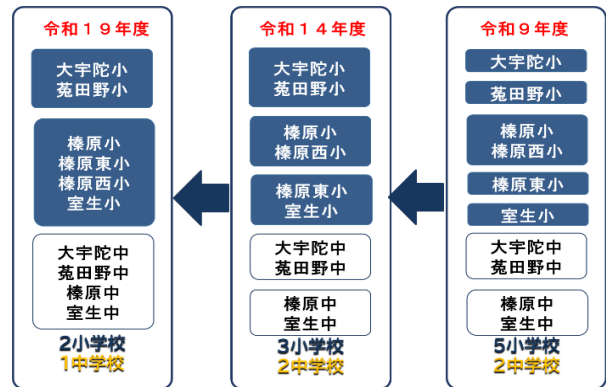
2 「新しい学校づくりに関するアンケート調査」の結果

(1) 新しい学校に期待する教育内容（複数回答可）

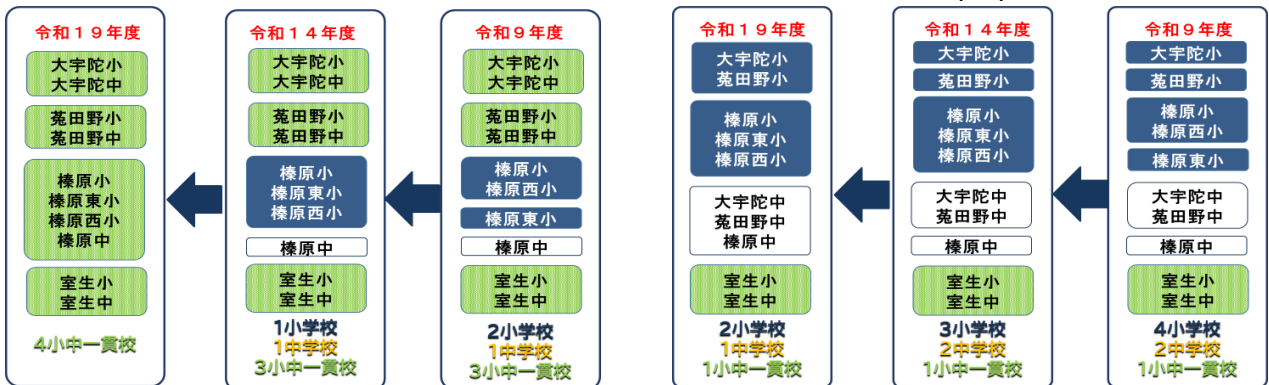
新しい学校に期待する教育内容として、市民、保護者は、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を身に付けること」が約7割と最も多く、「子ども一人一人に合わせたきめ細かな教育を受けること」、「子ども同士が刺激し合って、学力や体力などを高め合うこと」がこれに続き、ともに5割を超えていました。一方で、児童生徒は、「たくさんの友だちや先生と学んだりできる学校」、「先生が一人一人ていねいに教えてくれる学校」が過半数を超え、「クラブ活動や部活動の数が多くてさかんな学校」がこれに続きました。

(2) 新しい学校の3つの案

上記の教育内容を実現する新しい学校の形として、保護者は、(ア)、(イ)の案にそれぞれ約4割、(ウ)の案に約2割の回答でした。市民は、(イ)の案に約4割、(ア)の案に約3割、(ウ)の案に約2割の回答でした。



(ア)



(イ)

(ウ)

(3) 効果的な指導を行うために最小限必要な1学級当たりの子どもの数

保護者と市民の考え方に大きな違いはなく、「11～15人」に約4割、「16～20人」に約3割、「6～10人」に約2割の回答がありました。また、実際に子どもの指導に当たっている教員からも、「11～15人」とする回答が約4割と最も多く見られました。

(4) 学校選択制のニーズ

子どもの通う学校を自由に選べる場合、保護者の約5割、市民の約4割が、「通学時間のかからない自宅の近くにある学校」に通わせると回答しました。また、「比較的子どもの数の少ない学校」については、保護者、市民ともに約3割、「比較的子どもの数が多い学校」は保護者の約2割、市民の約3割の回答がありました。

3 委員から出された意見と会議で決定したこと

当日の会議では活発に議論が交わされ、出てきた意見は次のようなものがありました。

- ・学校の形を決めることは大事だが、子どもにとって一番良い教育とは何かを、コミュニティ・スクールの設置と並行して考えていきたい。
- ・アンケート結果は、民意を反映したものなので否定はできない。しかし、結果に大きな差があるわけではなく、個々の意見はすべて正しいので、一つに決めづらい。
- ・アンケート結果を見ると様々な意見があり、全ての意見を満たすには、学校選択制が必要ではないか。学校選択制が学校の特色化や教育の質の向上につながればいい。
- ・特色のある学校づくりと簡単に言うが、保護者、地域の協力が不可欠。意欲のある保護者の多い少ないで地域差が生じる。

学校規模の違いなどにより期待する教育は様々であり、今後、答申に向けて教育の内容について掘り下げて話を進めるため、基本となる案を決める必要があるという結論に達しました。その結果、(イ)の案を基本として、学校選択制も考慮しながら協議を進めていくと確認されました。

4 次回委員会のお知らせ

次回、第8回宇陀市学校適正化推進委員会は、令和5年5月23日(火)に宇陀市役所4階大会議室にて行う予定です。推進委員会に対するご意見は、郵送またはメールでお寄せください。(電話でのご意見は控えていただきますよう、お願いいたします。)なお、ご意見は市民からのものであることを確認するため、必ずご住所とお名前をフルネームで明記してください。会議の中では、お寄せいただいたご意見は匿名で取り扱わせていただきます。

郵送の場合：〒633-0292 奈良県宇陀市榛原下井足17番地の3
宇陀市教育委員会事務局 教育総務課 宛
メールの場合：soumu-tekisei@city.uda.lg.jp



※会議の詳細については右のQRコードまたは「宇陀市学校適正化」で検索して市のホームページをご覧ください。

